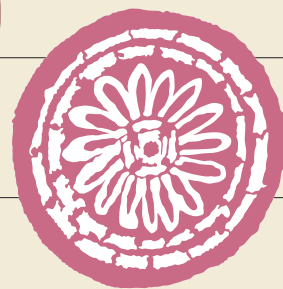


あきまろ 秋麻呂くん 通信

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

せいちょう 政庁特集

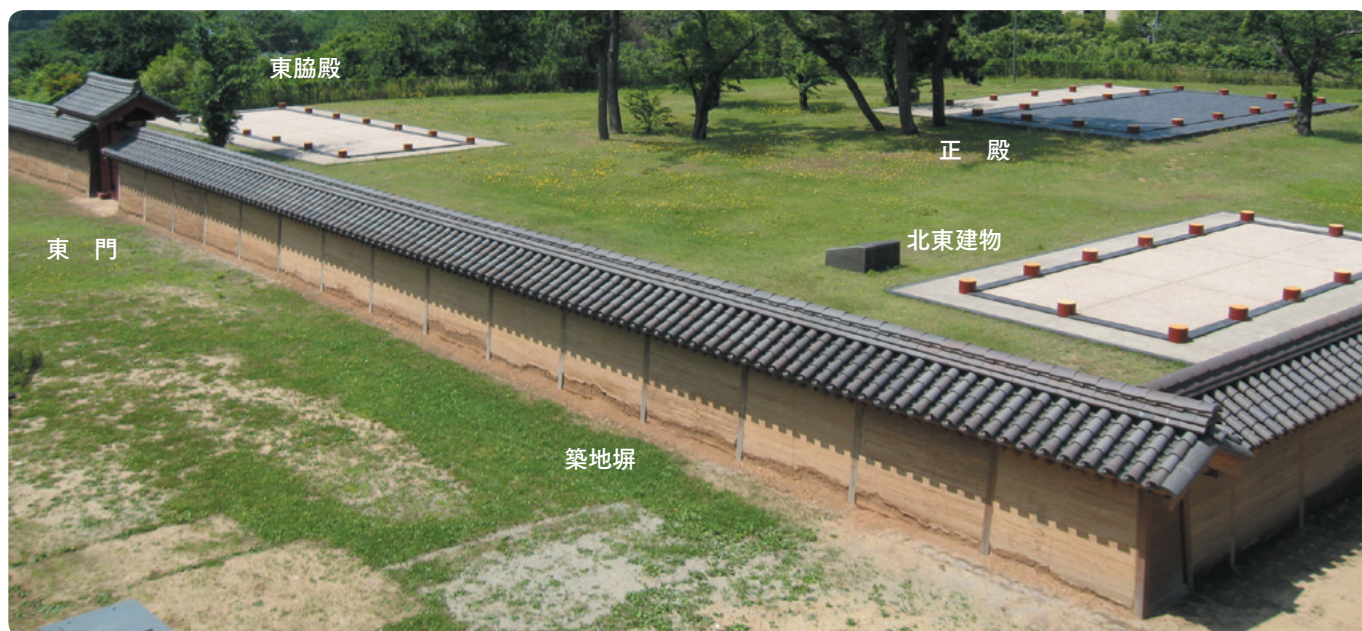


平成22年7月31日 秋田城跡調査事務所



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、みんなに秋田城のことを良く知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、古代城柵である秋田城の中心部であった政庁域について紹介します。



■復元政庁域(北東から)

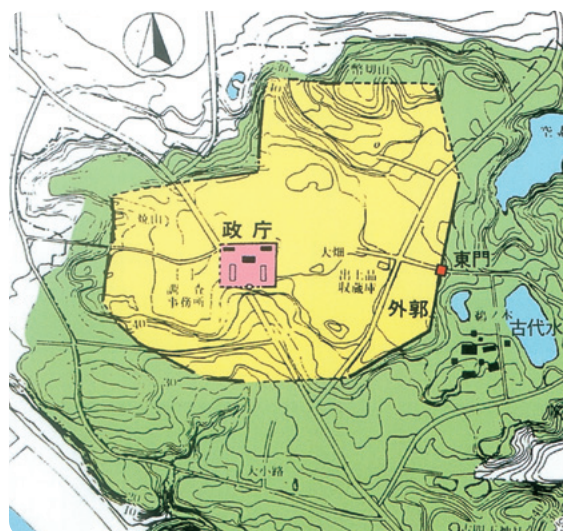


政庁とは

政庁は、奈良時代から平安時代にかけて、地方の役所において、重要な政務や儀式などが行われた中心施設です。

秋田城の政庁は、城壁に囲まれていた東西南北約550mの範囲のほぼ中央に位置しています。正殿や脇殿などの建物や広場があり、それらを築地塀などによって取り囲んでいました。

秋田城は出羽国の国府である出羽柵として天平5年(733)に創建され、最北の城柵として蝦夷の人々への支配や交易、外国との外交などの役割を担っていました。9世紀初頭に国府機能は移転されましたが、北の拠点として引き続き重要な役割を担い、10世紀中頃まで機能していたことが発掘調査により分かっています。その間200年間以上、政庁は城の中心としての役割を果たし続けました。





政庁の発掘調査

これまで7回の発掘調査が行われ、およその様相がわかっています。

正面が南向きで、中心の建物である正殿と脇殿が、広場を囲むようにコの字形に配置され、後方にも建物が配置されていました。全体は塀で囲われ、南と東西側に入出口の門が配置されていたと考えられます。調査では東門のみが発見されています。この規則的な配置は奈良の平城宮に倣ったもので、天皇の威信を当時の最北端の地まで示す重要な施設であったことがわかります。残念ながら明治時代の道路工事により、政庁の南西側が大きく破壊されていますが、他の古代城柵や全国の役所の遺跡と同じように左右対称を基本とした配置であったと考えられます。

正殿では、都から派遣された守(長官)や介(次官)などの上級官人が出羽国の重要な政治や儀式を執り行ったほか、正面の広場を中心として北方の蝦夷や渤海使に対する饗応や外交儀礼など、律令国家の北の窓口ならではのイベントも行われたと考えられます。



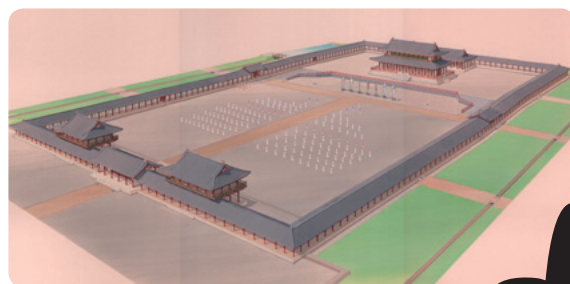
■発掘された正殿跡



■発掘された東脇殿跡

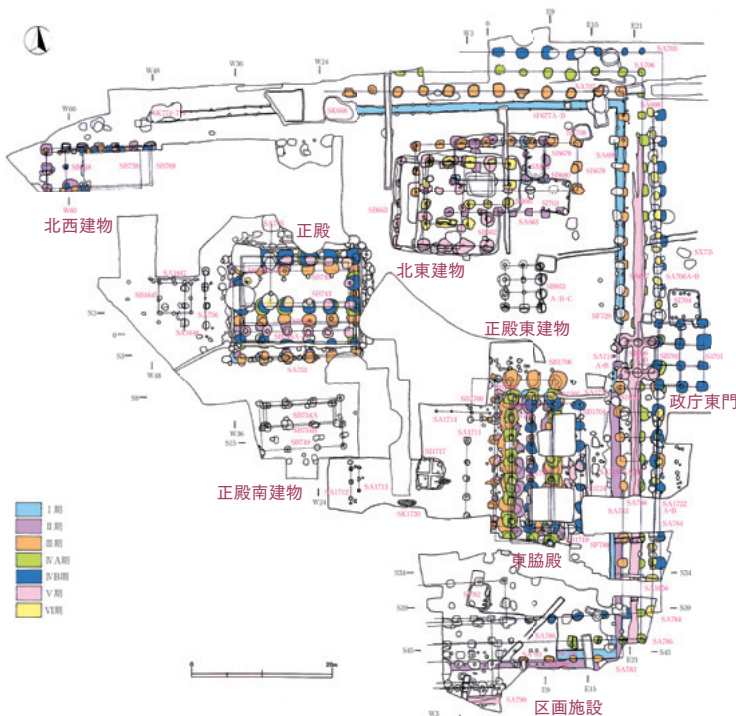


■平城宮配置図



■平城宮大極殿院での儀式的様子

立派な施設で蝦夷や渤海国の人々を迎えたのかなあ。



■柱穴等の跡が整然と並んで検出されました。



■秋田城創建期の政庁の様子です。薄い部分は壊されてしまった部分です。



政庁の区画施設

政庁は東西約94m、南北約77mの範囲を、奈良時代は粘土を突き固めた築地塀(土塀)、平安時代は材木塀で囲まれていました。出入口の門としては、東門のみが確認されています。創建当初の奈良時代前半の

築地塀は、正殿とともに当時最北の瓦葺き施設であり、その壮麗な外観は蝦夷の人びとや渤海国からの使者に律令国家の威厳を示すためとも考えられます。



■ 築地塀・材木塀・瓦溜
築地塀の基底部が残っています。



■ 政庁東門跡
建て替えて形式が変わっています。



■ 軒丸瓦と平瓦
瓦は特別な行政施設や寺院だけで使われていました。

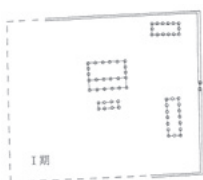


政庁の変遷

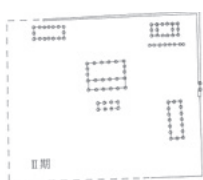
政庁はほぼ同じ場所で約200年の間に6回の建て替えが行われています。その時期は、政策による計画的な改修や、天災・火災からの復興に対応していることが発掘や歴史書の記録から分かっています。

奈良時代のⅠ期は庄内地方から出羽柵として移転された創建期で、最も壮麗な外観です。Ⅱ期は「秋田城」

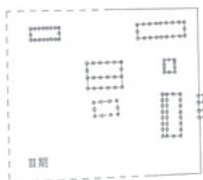
への改修期です。平安時代のⅢ期は、大改修期で建物や東門が立派な建物になり施設が充実します。ⅣA期「天長の大地震」からの復興期を経て、Ⅴ期「元慶の乱」での焼失からの復興後には全体がやや縮小化します。Ⅵ期、最終末期の改修では初めて正殿・脇殿が礎石建物となりました。



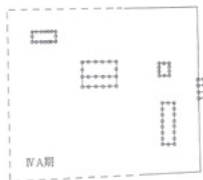
■ Ⅰ期(733年頃～)



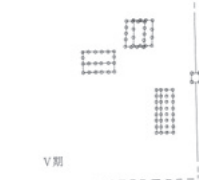
■ Ⅱ期(770年頃～)



■ Ⅲ期(800年頃～)



■ ⅣA期(830年頃～)



■ Ⅴ期(870年頃～)



■ Ⅵ期(925年頃～)



元慶の乱の痕跡

元慶2年(878)の蝦夷による大規模な蜂起により、秋田城は一時占拠され、物資の略奪を受けたほか、多くの建物が焼かれ、城内全体から木材の炭片や焼けた土が見つかります。政庁からもその痕跡が見つかりました。



■ 焼け崩れた正殿の白壁



■ 炭化した東脇殿の柱

秋田城の中心まで
攻め落とされて
しまったんだね。





政庁や行政に関連する出土遺物

政庁域の内部や城内から出土した遺物には、国司や国府の存在をうかがわせる遺物が多数出土しています。とくに**墨書土器**^{ぼくしょどき}や**漆紙文書**^{うるしがみもんじょ}などの文字資料からは、秋田城が担っていた行政機能を具体的に知ることができます。



■ 墨書土器「政厨(まんどころのくりや)」

政務のための政所と、専用の厨房があったことがうかがえます。



■ 漆紙文書「解文(げぶみ)」

出羽国の守(長官)と介(次官)の署名が残された公文書です。



■ 漆紙文書「出挙貸付帳(すいこかしつけちょう)」

領民に種もみとなる稲束の貸付を行っていた際の記録です。政庁から発見されました。



政庁域の復元^{ふくげん}

平成16年度から21年度までに復元整備を行いました。東門や築地塀は立体復元し、正殿などの主な建物は柱位置の表示を行いました。政庁全体がわかる精密な模型での説明も行っています。



■ I期模型



■ II期・III期模型



■ 政庁正殿



■ 政庁東門



■ 政庁築地塀



■ 政庁から遠く鳥海山を望む

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL]018-845-1837 [FAX]018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp

